



## 会 合 (48年2月～3月) (かっこ内は出席者数)

第7回理事会 48.3.13 (15) 議題 1. 第6回理事会議事録の承認 2. IFORS・TIMS 関係の報告  
 3. 48年度OR学会文献賞の授賞者の選考結果報告 4. 48年度役員選挙の結果報告 5. 第2回通常総会の議案の承認 (1)47年度事業報告 (2)47年度決算報告 (3)48年度事業計画案の一部修正 (4)48年度予算案の一部修正 6. 総会関連の会合予定の件 7. 支部事業報告ならびに決算報告 8. IFORS への新加盟国の件 9. 事務センターへ事務委託の状況と再契約の件 10. 入退会の件 11. 受託研究の終了報告 12. 秋季研究発表会の件  
 13. その他

編集委員会 48.2.2 (5); 48.3.23 (7)

広告委員会 48.2.5 (3)

IFORS 常任委員会 48.2.15(7); 48.3.15 (6)

IAOR 委員会 48.2.28(2); 48.3.27 (1)

大会準備委員会 48.3.21 (9)

OR 金曜サロン 48.2.2 第35回“観光のOR”(6); 48.3.2 第36回“ORにおける統計的方法”(8)

編集幹事会 48.2.23 (7); 48.3.22 (5)

庶務幹事会 48.2.26 (8); 48.3.10(4); 48.3.29 (6)

入退会 (48年1月24日より3月13日まで・3月13日第7回理事会にて承認)

### 入 会

〔正会員〕

大谷正美 (シャープ(株))・加藤 保 (株)田窪工業所)・樫森隆夫 (東亜燃料)・木村興治 (富士通)・北村和彦 (三井東圧化学)・小池保夫 (セントラルコンサルタント(株))・小泉隆挙 (日本アイ・ピー・エム)・石井威望 (東大)・白石総二郎 (日立京浜工業専門学校)・高岡澄雄 (中国電力)・高橋義夫 (北陸銀行)・中村久士 (日本コンピューターシステム)・永井順正 (新明和工業)・末永修三 (住友重機械工業)・野下浩平 (東大)・藤田昌久 (京大)・森 長徳 (大分大)・中村英夫 (東工大)・小島祥一 (経済企画庁)・遠山 仁 (ソニー)・井上政憲 (日本アイ・

ピー・エム)・近藤勝直 (京大)・福永義明 (九州松下電器) (以上23名)

〔学生会員〕

笠間潤一 (工学院大)・木村幸雄 (成蹊大)・坂本芳夫 (工学院大)・桜井保夫 (防衛大)・篠藤静男 (工学院大)・須田賢二 (電気通信大)・高津信三 (東工大)・土居良清 (阪大)・西野健治 (広島大)・西 敏和 (法政大)・原野 進 (工学院大)・岡田 豊 (阪大)・茂木健治 (慶大)・森 裕 (工学院大)・力石雅樹 (慶大)・横田富雄 (工学院大)・田中 実 (広島大) (以上17名)

〔賛助会員〕

笠原機械工業所・(株)ニューエス・エシヤテックカンパニー・日本マネジメントスクール・(株)第一勧業銀行 (以上4社)

### 退 会

〔正会員〕

上村泰令・北見 宏・小林正和・桜井幸勇・沢村淑郎・田中喜一郎・中山龍一・長谷部祐二・丸山直・森田恒広 (以上10名)

〔学生会員〕

楠原 修・柳沢 務 (以上2名)

## 会員計報

中野 章殿 (財)電気通信総合研究所

1月9日死去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

## 昭和47年度退会者(定款第12条第1項による)

〔正会員〕

池上一志・遠藤 勉・大庭 元・柏木清志・金子敬生・金子 裕・川井敏弘・河上隆一・河越康全・木村茂一・国久荘太郎・熊谷直隆・佐野泰子・桜木満夫・鈴木貞雄・高柳 実・田島敏彦・田村泰弘・武子貞一・武田 清・谷有一郎・塚田賢志・土居武・富岡幸久・仁井武彦・野原征夫・樋口正樹・平野和男・藤田秀穂・本間康司・前田忠昭・松尾公弘・三木義昭・三宅健一郎・棚松 章・榎木次男・

本山 薙・山田誠一・山田善教・吉沢 正・朝川希二・天野 衛・井内 宏・石塚致則・池亀正勝・岡本孝平・川原通司・沓掛 晁・小池信也・後藤健一・河野龍男・佐藤正典・佐藤和克・清水 徹・篠原典男・杉沢 拓・高宮 晋・竹内英寿・丹野泰行・竹腰重徳・千川一夫・塚田明治・富岡親憲・中田晃一・浜口隆也・平岩重治・藤田 忠・間宮舜二・前田 功・光明春子・三村 猛・森谷正規・森順一

郎・山本英紘・鈴木定雄 (以上 75 名)  
〔学生会員〕

阿部高久・大石廸夫・加地範行・川合千佳雄・鈴木経義・多村雄一・中村 納・長田 博・藤川和男・宝川幸司・山本芳明・三好章夫・村松健児・渡部靖広・岸 勇二・木島敏隆・井上寛康・田中勝英・片山 勁・鍾 英明 (以上 20 名)

## IFORS・TIMS ニュース

1975年7月、日本OR学会が幹事学会となってIFORS, TIMS の二つの国際会議が続けて開催される。学会はその準備の態勢を逐次ととのえているところである。

2月上旬、現IFORS会長 A. Jensen 教授(デンマーク工科大学)、現IFORS財務担当理事 G. Colclutt 教授(マンチェスター大学)、IFORS事務局長 M. Kinnaird 女史、会長秘書 H. Welling さんの4人が会場の視察やプログラムなどのうちあわせに来日した。一行は、OR学会で日本側の準備委員と会合したほか、東京・大手町の経団連会館と京都・国際会議場を見学した。その結果、これまで進められてきた案が大幅に改善され、現在のところIFORS 1975年国際会議のアウトラインは、次のようなものに予定されることになった。

期日 7月18日(木)、19日(金)、7月22日(月)～24日(水)の5日間

場所 18日：東京 19日：東京・フィールドトリップ 22日～24日：京都

プログラムには、①メインストリーム、②フィールドトリップ、③ワークショップ、④フォーラム、⑤各国OR学会からの論文発表の5本の柱がある。

①は、18日の開会式のあとと24日の閉会式に先だって、いずれも全体会議でなされる創造的内容をもつ特別講演である。昨年のダブリン会議では総合報告も①の中にあっただが、75年には除かれることになりそう。②は、こんどの会議でのはじめての試みである。19日終日行なわれるが、わが国の官公庁や民間企業グループのORワーカーと国際会議参加者がいっしょになって、問題解決の実例や過程について討論するもの。できるだけ、現場に出かけて行って行きたいという意向であ

る。③は、日本OR学会員は自由に参加できるので、22、23の両日、京都で行なわれる。ここでは特定のテーマについて密度の高い討論が行なわれる。その結果は24日の全体会議で報告されよう。④は、自由討論を中心にした円卓会議で、昨年秋の北海道大会でもこれに似たやりかたのセッションがあった。これも22、23の両日、京都で行なわれる。⑤は、各国OR学会から選抜された論文発表で、やはり22、23の両日に行なわれる。

このようなプログラムの構成になる予定である。詳細は国際水準のプログラム委員会がこんど煮つめていくことになるが、この委員会は、日本側近藤次郎教授(東大)と G. Colclutt 教授(マンチェスター大学)とが2人で主宰するものであるが、とくにフィールドトリップについては、日本側で十分な準備が必要であろう。

TIMS 国際会議は、IFORS の終了後、26日(もしくは25日午後)から28日まで京都で開かれる。この国際会議は、日本側西野吉次TIMS日本支部長(早大)米国側 P. Norden 教授(コロンビア大)の2人が general cochairmen に、プログラム委員長に M. Starr 教授(コロンビア大)が指名されている。いまのところ、プログラムの具体的なことはきめられていないので、明らかになりしだい逐次ご報告する。

こんどの準備としては、たんに国際会議を開くことの直接的な仕事のみではなく、OR学会の活動の国際化という方向への動きが不可欠になる。そのために、IFORS の準備は事務局の手でなされる部分と、広く学会会員の皆様をお願いする部分との両面から成っていくと思いますので、ご協力のほどをくれぐれもお願ひして、IFORS, TIMS 準備事務局だよりを終わります。

## 日本OR学会入会のおすすめ

### ORは次のような問題解決に向いています

1. 公害問題 (大気汚染, 水質汚濁, ゴミ処理, 薬品公害, 環境育成, 騒音防止)
2. 交通問題 (通勤輸送, 交通渋滞, 配車計画, 交通量予測, 事故防止, 信号制御)
3. 流通問題 (生産計画, 輸送計画, 在庫計画, マーケティング, 情報処理, 販売促進)
4. 住宅問題 (住宅立地, 住宅生産の工業化, 住宅地計画, 住宅情報, 性能分析)
5. 資源問題 (PPBS, 国土計画, 投資計画, 取替計画, 労働力の適正配分)
6. エネルギー問題 (生産供給計画, 利用の最適化, エネルギーの転換)
7. 教育問題 (教育の組織計画, 訓練計画, ティーチング・マシン, 青少年対策)

オペレーションズ・リサーチは、はじめは軍事上の作戦手段として発達しましたが、しだいに企業において、有効な管理技法として利用されるようになり、さらに、上のような社会的問題の解決にも適用されるようになりました。最近ではコンピュータの発達にともない、ORをますます有効に使えるようになっていきます。

ORの発展にとって最も重要なことは、ORの利用者が内外の学界の諸権威と接し、また、研究者が各界の実情に直接ふれることです。本学会はこの要望にこたえられるわが国唯一の国際的に認められた学術団体で

1. 研究発表会, 講演会の開催
2. 研究会の開催
3. 機関誌, 図書の刊行
4. ORに関する図書, 文献, 資料の収集と整理
5. 海外との交流・国際会議への参加
6. 研究受託

の事業を行なっております。

ご入会をおすすめいたします。

入会申込書, 資料をお送りいたします。

〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会 東京 (03) 815-3351 ~ 2

創立1957年6月15日